

環境まちづくりをめざす

# あじえんだ

# 春

2001

第7号

2001年3月31日発行

みやこ  
京  
の  
ア  
ジ  
エ  
ン  
ダ  
2  
1  
フ  
ォ  
ー  
ラ  
ム  
ニ  
ュ  
ー  
ス  
レ  
タ  
ー

「アジェンダ21」とは「21世紀への課題」という意味。  
「京のアジェンダ21フォーラム」では、市民・事業者・行政が力を合わせて  
環境と共生できるまちの姿を描いていきます。



アジェンダを語る

## グリーン・エコノミック・ネットワーク構築をめざして

KES 本格始動へ

いよいよ動きだした KES 21世紀、企業の環境管理はどう進んでいくのか

アジェンダ見聞録

ドイツ ハム市  
環境首都コンテスト

おきらくエコロジー相談室

自宅のできる雨水利用

アジェンダフォーラム会員紹介 ひと・まち・きたる

上田 麻衣子 さん

未来に残したい...  
京の知恵

もう一度「日本の家」

色々やってみての今こそ

「日本の家」は、地球に、人に、  
おサイフにも優しく、  
かつ芸術的なのでもあります。

そしてこのことにより

国際的ですらあるのです。

写真 山口邸

撮影 山口洋典

\* 詳しくは5ページをご覧ください

# アジェンダを語る

## MIYAKO no Agenda21

約1年間の検討を経て、この4月から正式にKES認証事業部が立ち上がります。21世紀を迎えて、企業がこれからどのように環境と向かい合っていくことになるのか、KESの策定に関わられた企業活動ワーキンググループコーディネーターの津村昭夫氏に改めてお話を伺いました。

### KESってなんですか？

「京都・環境マネジメントシステム・スタンダード」の略です。環境マネジメントシステム（EMS）というのは、企業が環境を管理していく活動を進める仕組みです。最近、ISO14001の認証取得が急速に増加していますが、中小企業にとって「理解が難しい、コストが高い」等ハードルが高い気がします。

京都市が資本金1億円以下で従業員100人未満の企業を対象に実施した調査結果によりますと「環境問題は重要と考える」が70%でしたが、「実際に取組みができていない」が80%でその理由は「1.何をして良いのか分からない」、「2.コストがかかる」が同率1位ということでした。つまり、思いと実態とのギャップが大きいですね。

圧倒的多数を占める中小企業にこそ「コストがかからない方法で、実質的な環境管理活動に取り組んでいただく」ためのシステムが極めて重要だと思ったのです。これがそもそものKESの発想です。

### KESに取り組むことのメリットを聞かせていただけますか。

企業にとってKESに取り組むことのメリットは、まず一つに「ステータス」です。KESを取得した企業は、「うちは第三者から『環境にやさしい』と認められたんだ」というプライドを持つことができます。実

質的なメリットとしては、KESを取得することで優先的に製品を買ってもらえる可能性があります。今後、KESをグリーン調達の一つの基準になるような仕組みをつくりたいと考えています。

### グリーン調達とはなんですか？

グリーン調達というのは、企業や行政が必要な物品やサービスを調達する時に、意識的に環境に配慮したものを選択することです。去年の6月にグリーン購入法というのができて今年の4月から施行されるわけですが、この法律によって国は環境にやさしいものを買うことが義務付けられます。

京都市や京都府もグリーン調達の選択基準を作ってその基準の一つとしてKESを入れてもらえることを期待しています。そうなればKESを取得している企業の製品は環境にやさしいというお墨付きが与えられ、優先的に製品を買ってもらえるわけです。

### これからKESの取組の輪を広げていくための戦略は？

企業、市民、NPOと行政がいっしょに取り組む「グリーン購入ネットワーク」を京都で立ち上げるのが当面の課題ですね。これは地域社会に環境にやさしい製品のガイドラインを示そうというものです。グリーン調達基準を作るための議論のテーブルを設けて、市民や環境団体の方

# グリーン・エコノミック・ネットワーク構築をめざして

## KES本格始動へ

### 津村 昭夫さん

日本電池(株)環境管理室長及び(社)京都工業会環境委員会委員長。ISO14001環境マネジメントシステムCEAR登録環境審査員。1999年4月に企業活動ワーキンググループが設置されて以来、「京都・環境マネジメントシステム・スタンダード(KES)」の策定に関わる。



にも参加してもらい、コミュニケーションがとれる仕組みにしたいと思っています。このネットワークは2001年度中には何らかの形が見えるようにしたいです。あと、KESを認証取得した企業をネットワーク化することも考えています。事例発表会を行うなど、情報を共有するための緩やかなネットワークです。エコ商品のアイデアを互いに発想し合えるような場所になればいいなあとも思います。

これまでの日本の社会では、環境活動には縦のつながりが強かったように思います。例えば、親会社がやったら子会社もというような感じですね。このように横のつながりでやっていくというのはあまりなかったように思います。異なる業界間でもコラボレーション（協働）して行って、環境を軸にした新しい産業づくりができればという夢も描いています。

**グリーン調達基準は、環境マネジメントシステム（EMS）がある**  
**と自己宣言しているだけではダメでしょうか？**

京のアジェンダ21フォーラムのような第三者に認証してもらうことがステータスにつながります。誰かがチェックしないと本当にやってるかどうかわからないし、実態をしっかり把握することで企業にも真面目に継続的に取り組んでいただくことができます。自己宣言だけでは企業側もやりがいがないし、せっかく取り組んでいただくからには本当にキチンとやっていただけるシステムを作った方が良くと思っています。

しかし、その場合の一番のネックは、認証にお金がかかるということです。したがって、できるだけ安い費用で活動していただける審査員が必要になります。そこでボランティアベースで活動して下さる審査員の方を募集したのですが、当初10

人も参加していただければと思っていましたが、現在までのところすでに20人を超える方が立候補してくださっています。現役でISO14001の審査員をされている方で、自ら「ボランティアの方が楽しい」とおっしゃって参加して下さった方もいます。

いろんな立場の人に参加していただき、パートナーシップを組んでやってこそ信頼性は高まります。KESでは、すでに審査員をどう集めるのかという一番のネックをクリアしつつあります。リタイアされた方で、自分の経験を活かしたいという方は結構いらっしゃるし、そういった方々の能力を社会で活かしていくことはすごく良いことだとも思います。また、その能力を次の世代に伝えていくこともできますね。そういう意味では、大学生など若い方にもすごく興味を持って頂いています。

**KESに取り組もうとされている企業の現状などを教えてください。**

2月5日に商工会議所でKESの説明会を開催しましたところ200人程の方々がお集まりくださいました。KESの説明を聞いた後の感想をお尋ねしたところ「興味を持った」が91%で、そのうち「認証取得を検討する」が78%でした。さらに認証取得の時期をお聞きしたところ「できるだけ早く」が40%、「2001年度中」が48%ということでした。

やはり中小企業の方々もかなり環境問題には興味を持っておられるし、何か取り組みたいと思っておられるんですね。しかし何をやっていいのかわからないし、誰に認めてもらえるのかという問題があった。だからこそKESに興味を持って下さったのだと思います。

やはり企業も人間と同じで、自分の達の到達点を自覚したいし、それを

評価されたいということなのでしょうか。

それに最近、経営者の方の考え方もかなり変わりつつあると思いますよ。次第に「環境への対応の仕方が経営を左右する」との認識を強めてきておられる。やらざるを得ないからやるのではなく、それを一つの優位性にするために積極的に取り組むところが増えていきます。

**今後の展望を聞かせて下さい。**

来年度の企業活動ワーキンググループのもう一つの目標として、学校にもKESを導入することを考えています。これからの学校は、総合学習という意味でも、地域とつながることが重要だと思います。そういう点で、KESを学校に導入することは意義深いと思います。

また、ISOの場合は取るのが目的化しているという傾向もあるかと思うんですけど、そうならないためには何を指すのかというビジョンを明確にしていくことが大切です。KESでは、いろんな仕組みを取り入れることで、事業者が主体的に環境に取り組めるようにすることが大切だと考えています。

環境に取り組むことで、競争力やステータスが上がる。新しいエコ製品が生まれてくる。環境配慮型の社会が生まれ、それによって新しい産業が生まれるというふうにつながっていきます。そのためには消費者と企業のパートナーシップや、企業の環境まちづくりへの貢献も重要になってくるのではないのでしょうか。

インタビュー：小泉洋平（ISOP 代表）  
ニュースレター編集チーム

ISOP：関西の学生を中心とした団体。環境に対する思いが空回りしないよう、スキルアップを重視しながら環境問題に取り組んでいこうという趣旨で2000年4月に立ち上げられた。主にISO14001についての基礎的な講座や、企業に対するEMSの構築支援などを行っている。

# ドイツ ハム市 環境首都コンテスト



昨年11月、ドイツと日本のエコシティづくり交流プログラムが「環境市民」の主催で京都でおこなわれました。この企画では、「環境首都コンテスト」というドイツのユニークな取り組みが紹介されました。今回のアジェンダ見聞録では、98年の環境首都に選ばれたハム市のことを例にとり、環境市民のチーフコーディネーター 秋本育生さんにお話をお聞きしました。

## Q. まず、「環境首都コンテスト」というものについてお聞かせ下さい。

ドイツには環境首都と言われる自治体があります。これは行政の首都とは別のもので、ドイツ環境支援協会というNGOが主催する「環境首都コンテスト」で優勝した自治体に贈られているものです。フライブルクやハイデルベルクといった日本でも有名になっている環境都市も、このコンテストで優勝してからその名を広めたということがわかりました。

日本の自治体もドイツの自治体もそうですが、自治体同士は企業のように互いをライバル視しているわけではありません。「戦略としての競争」をモットーに環境首都コンテストは、行われています。

## Q. 今回講演にハム市の方を招いたのはどういった意図があったのですか？

ハム市というのは昔は炭鉱によって栄えた街でしたが、炭鉱が廃れた後は街も荒廃しました。しかし、小さな環境対策を街の各地で始め、自治体が市民、活動団体、環境団体、学校、手工業者、企業、小売業者、主婦団体などのパートナーシップですすめていくうちに、環境首都に認められるまでになったのです。ハム市は、フライブルクのように住みたい街の上位ランクに入るような街ではありません。しかし、一つ一つの対策を積み重ねていくことで街を再生させ環境首都に選ばれた街、それがハム市なのです。たとえば

学校でエネルギーと水の節約を行い、削減したコストの50%は学校へ還元する。40校以上の小学校で親や教師がエコロジカルな校庭への改造に参加するなど、その取り組みは各地で参考にできるものばかりです。日本でドイツの話をする、すごいと感じてはくれるが別の世界の話として捉えられてしまうことが多く、なかなか日本での行動にまで結びつきません。今回ハム市の人に来てもらったのは、直接話してもらって少しでも身近に感じてもらい、日本でもやっていける、やっという気がなってもらいたかったということが最大の狙いです。

## Q. 環境首都に選ばれた街や上位に入る街に共通することを教えてください。

まずは人がいることです。市長や町長さんのようなトップに立つ人、自治体で働く人、NGOで働く人、それぞれの中にパートナーシップを築いてよりよい街にしていこうという考えと行動力をもった人がいることです。もうひとつの大きな要素は、行政のタテ割りの弊害がとれていて、他の部局との連携がとれるようになっている自治体です。このような街は商店街にも活気があり、住みたいと思わせる空間があります。規制でガチガチにするのではなくパートナーシップで生き生きとしている。成功しているところは、環境にいい街というのが住みやすい街と融合するかたちのまちづくりになっていますね。

## Q. ハム市のような街はドイツには普通に存在するのですか？

そんなことはありません。ハム市にしても他のコンテストで上位に入る街にしても、行政とNGOがパートナーシップを組んで共同で作りあげていく過程で街の雰囲気も変わっていったのです。一緒に作業したりするなかで、創り上げていこうとするもののイメージを共有すること

ができるようになります。

ハム市の例でいえば、まず最初に市内の500のグループを招待してワークショップを行い、ハム市の未来像を考えました。これは市民との共同作業で行ったのですが、市長もその作業に最初から最後まで参加していたとのこと

## Q. 日本でも環境首都コンテストを行う予定は？

すでに準備は進めています。この春にプレコンテストを行い、自治体の現状も踏まえながら環境首都を選ぶ設問として適切なものになっているかをチェックして、今年の秋には第1回のコンテストをしたいと思っています。環境対策をすすめていくには行政内でも他の部局との連携が必要になってきます。自治体にはそのためのトレーニングのつもりでプレコンテストに参加して頂きたいと思います。環境首都コンテストは、日本の自治体同士が良い意味で競い合い情報を交流するための指標になっていくことでしょう。

環境首都コンテストが自治体を評価し成長させる一方で、コンテストの評価基準や手法自体も成長していくでしょうし、「10年後には、昔の環境首都コンテストはなんてレベルが低かったのだろうと言えるくらい成長していきたい」と秋本さんもおっしゃっていました。

(聞き手：宮田晃一郎)



住民によって近自然に創りかえられた釣り堀池

Q 最近、東京などでは雨水利用が盛んだと聞いたのですが、具体的にどのようなものが教えてください。私の家でも雨水利用はできますか？（山科区 M）

A 雨水利用というのは公共施設や家庭に貯水タンクを設置し、屋根などに降る雨水を集め、トイレの流し水や樹木の散水などに利用することです。

21世紀は世界の多くの国々で水資源が枯渇し、水不足が深刻化するとされています。近年、日本においても夏場の渇水、地下水の過剰なくみ上げによる地盤沈下、都市型洪水などの問題があり、水の循環の輪がうまく回らなくなりつつあります。そこで、雨水を利用することは水資源の有効活用になり、地下水の枯渇防止、ヒートアイランド現象の緩和、省エネルギーなどの効果があります。また、災害時の防災用と生活用水などへも利用が可能です（地震などで断水した時はまず水問題に悩まされます）。もちろん、節水を心がけることも大切ですが、この雨水利用に取り組むことも必要だと思います。私の家では200リットルのタンク（写真1参照）を設置し、庭の植木への水やりや金魚の水槽や車の洗浄などに使っています。二つのペットボトルを組み合わせて、降り始めの汚れた雨を取り除く装置（写真2参照）もあ

ります。タンクの設置まではいかなくても、庭先やベランダにバケツを置いて、その雨水を利用することもお勧めします。水道代も減るので、経済的にも大変お徳ですよ。

もっと情報が欲しい方は、「雨水利用を進める全国市民の会」のホームページ（URL <http://www.rain-water.org/>）をご覧ください。関西でも「関西雨水利用を進める会」や「自然エネルギー学校・京都」が活動をしています。今日からあなたも気軽に取り組んでみてはいかがでしょうか。

上田正幸 自然エネルギー学校・京都 雨水利用担当）



写真1



写真2

上記団体の連絡先等は、フォーラム会議室までお問い合わせください。

## 其の七、もう一度「日本の家」

モダン家具のインテリア、北欧スタイルの白木の暮らし。無理をしたカーペットも引き剥がして流行のフローリングへ、しかし意外に冬が冷たく置きゴタツの登場。

ずいぶん色々手を出して、考えたくないけどお金もかなり使った割に満足感がない。家具の間をぬつての掃除もグツタリで、なにか違うところに来てしまったのか。

そしてこの頃、古い日本の家、畳、縁側、唐紙、障子、ひっそりとした土の塗り壁が妙に気になる。なにかを囁きかけてくるようだ。

左様、今、「日本の家」は一つの答えです。それから「古い」という思いは捨てましょう。たかが五十年前ほどの短い時間の中で古いも新しいもないでしょう。文化だ伝統だとは言わなくても、お金も場所も高張る家具など少ないほど美しく、掃除機がなくても簡単に片付き、ゴロツと寝ころんでも、かしまって正座もカチチになる畳と、木と紙と土に囲まれる癒しの暮らし。

色々やってみての今こそ「日本の家」は、地球に、人に、おサイフにも優しく、かつ芸術的なのでもあります。そしてこのことにより国際的ですからあるのです。

恩地惇

（会員、環境デザイナー）

GK京都取締役社長）

写真 山口邸  
撮影 山口洋典



## ライフスタイル ワーキンググループ

ライフスタイルWGは、「何をしているグループなのか分からない(分かりにくい)」とか、「自分たちの関心のある活動とは違ったことをやっている様なのであまり関わりを持たない方が・・・」、さらに「京都といっても広いのに、地域の取組と結びつかないことをやっているようだ」などと思っておられる人が多いのではないのでしょうか？ これまで、確かに家庭に焦点をあてて「環境にやさしい暮らしの実現をめざした省エネ型ライフスタイルなどの提案・推進」が目立っていましたが、その中から「環境にやさしい地域づくり」をめざした色々な取組が動きだそうとしています。そこで、「環境にやさしいライフスタイルを地域から」との思いと行動に駆られている人の参加を募っています。

(コーディネーター 袖岡 信明)

## 企業活動 ワーキンググループ

企業活動WGでは、これまで全力で準備に取り組んできた「KES 認証制度」が4月からいよいよスタートし、今後は、環境にやさしい企業の育成及びこのような企業の購買面からの支援のため、企業や行政など事業者の間だけでなく市民とも連携した形でのグリーン購入ネットワークづくりを目指します。また、KES 認証制度の普及に取り組むとともに、KESの適用範囲の拡大に向けた検討を進める予定です。

(コーディネーター 津村 昭夫)

## エコツーリズム ワーキンググループ

京都市は観光客を増やしていくという目標を立てているのですが、そのこととCO2の10%削減という目標を両立させるには、今の京都観光の形をエコロジカルなものに変えていくことが必然となります。エコツーリズムワーキンググループは、そうした困難な課題に向かおうとしています。より多くの方々が必要です。お手伝いいただける方はフォーラム事務局までご連絡ください。

(コーディネーター 水野 篤夫)

## 交通 ワーキンググループ

昨年の10月にスタートした都心のエコ交通プランづくりは6月の環境月間に向けて取りまとめ作業を進めています。幅広い市民にアピール力のあるビジュアルな内容をめざしています。ご期待ください。

来る6月9日に公共交通、自転車、物流、まちづくり、総合の5つのタスクの作業成果を統合するための交通ワーキング全体会を行います(下記参照)ので関心のある方はぜひご参加ください。そこでの議論をふまえて6月の「環境まちづくり交流会 in 京都」において「都心のエコ交通プラン・キックオフレポート(第一次試案)」を発表する予定です。

このレポートを土台にして今後、一定の成果が得られた100円循環バスの実験に続き次なる都心における交通社会実験にむけて関係する諸団体及び行政部局との対話と協働を一層強めていき、計画段階から実質的な市民参加(PI: Public Involvement)で行われるようアジェンダ21フォーラムとしても積極的な提案を行っていきます。

(コーディネーター 能村 聡)

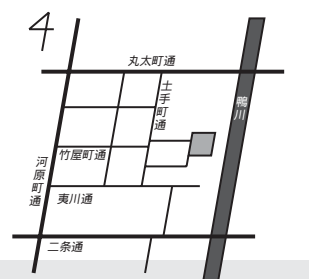
### 交通ワーキンググループ・都心のエコ交通プラン市民討論会

「語り合おう 都心のエコ交通ビジョン」

(日時)6月9日(土)午後1時半から4時半

(場所)職員会館かもがわ

(中京区土手町通夷川上ル末丸町284 / TEL: 075-256-1307)



## エコミュージアム ワーキンググループ

3月10日に瀧端真理子さんによる「博物館の革新運動としてのエコミュージアム」という演題で例会を行いました。国立博物館の独立法人化の流れの中で、博物館のネットワーク化や、博物館への市民参加の促進、現地保存を前提として敢えて資料収集を行わない「ゼロ次資料」という考え方の提起といった、エコミュージアムと通じる動向が起こりつつあるが、博物館とエコミュージアムの関係者は、互いに無関心すぎるといった指摘がありました。これに基づき、エコミュージアムが想定する地域や、保存すべき資料についての議論を深めました。

2001年度は、「平野町ぐるみ博物館」の心意気にあやかって、おもろく（楽しいこと）ええかげんに（固有性や多面的な価値がほどよくブレンドされて）、人のふんどしで（既に行われている活動を尊重し協働する）という方針で活動します。毎月欠かさずに例会を行うこと、ホームページ等で紹介するデジタルエコミュージアムの展開策の検討、京都市内でのエコミュージアム活動のあり方の模索していく予定です。

（コーディネーター 笹谷 康之）

## KES、いよいよ本格実施。

### KES 認証マークが決定しました!!

4月からのKES認証制度の本格実施に向け、KES認証マークを募集しましたところ、たくさんの方からご応募いただきありがとうございます。

ご応募いただいた中から審査の結果、荒川佳夫さんの京都らしいマーク（右図）に決定しました。荒川さんには、フォーラムより賞品をお贈りします。



### KES 認証事業部を開設しました!

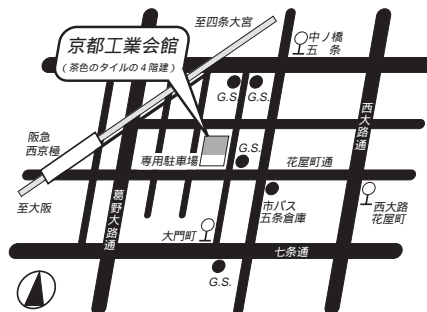
「KES 認証事業部」を設置しました。今後は当認証事業部において、KES 認証制度の運用、審査・認証、構築の指導等の事業を行っていきます。

KES 認証事業部では、認証取得に向けた構築講座を随時開催したり、各企業・組織に応じたコンサルティングや審査・認証を行います。

KES 認証取得をご希望の方は、下記の「KES 認証事業部」までご相談ください。

### 京のアジェンダ21フォーラム KES 認証事業部

〒615-0801  
京都市右京区西京極豆田町2番地  
京都工業会館 3F  
TEL/FAX 075-323-6686  
kesma21f@mbox.kyoto-inet.or.jp



## 告 知

### 「環境まちづくり交流会in京都」 における 市民・事業者団体主催セミナーの 「主催者」募集中!

\*\*\*\*\*

環境月間行事として、京都市と共催して6月22日（金）から6月24日（日）まで「環境まちづくり交流会in京都」を開催いたします。この中で6月22日（金）に予定している「市民・事業者団体主催セミナー」の主催団体を募集中です。環境保全に関するセミナー等にご利用いただける会場を提供いたします。会場使用料・付属設備使用料の負担及び「環境まちづくり交流会in京都」の全体に関する広報についてはフォーラム等で行いますので、ご応募お待ちしております。

なお、詳細はフォーラム事務局までお問い合わせ下さい（連絡先は8ページ）

提供する日時

6月22日（金）

会場

京都市生涯学習センター「京都アスニー」  
（中京区丸太町通七本松西入）

申込締切

5月2日（水）

ひと  
まち  
きたる

立命館大学産業社会学部 4 年生

## 上田 麻衣子 さん

待ち人来る、ではなく「ひと・まち・きたる」。  
京のアジェンダ21フォーラムの会員で、積極的に活動  
されている方を紹介していきます。



(撮影 千葉有紀子)



ゼミの様子

京都市左京区在住。深井純一先生のゼミで環境に取り組む。京のアジェンダ21フォーラムとの出会いから、宿泊施設の廃棄物問題というテーマに巡り会い、その調査がまとまったばかり。就職活動中の忙しい中、インタビューに応じてくださいました。

## なぜ深井ゼミを選ばれたのですか？

ゼミを決めるとき、「文献を読むばかりでなく、実際に調査をします。」というので選びました。

昨年までは長野県の阿智村における産業廃棄物処分場とのかかわりについての調査をしていました。それが終わって次はどうする？ というときに、偶然、京のアジェンダ21フォーラムに出会いました。

昨年の2月の「エコツーリズム都市・京都シンポジウム」ですね？それからが大変だったんですね。

そうです。フォーラムより、「京都市内の宿泊施設の廃棄物の調査をしたら」と言われて、一応テーマとして持って帰ったものの、まさかそのままゼミのテーマになるとは！

最後までゼミとフォーラムと両方にフルに参加していたのは、結局私だけだったので、連絡や調整で大変でした。何度も「テーマ、決め直さへん？」っていいかけました。実際に調査を行った4か月間も泣きました。半分位は調査の前に門前払い。調査に応じてはくれても、そんなことまで聞くの？ とあまり対応が良くないところもありましたね。

その調査の結果が報告書『「京の岐路」～環境にやさしい宿泊施設をめざして～』( )にまとまったのですね。

まず、それまで調査でお世話になっていた長野県での予備調査を経て、5月になって調査テーマを5部門((1)仕入れ、(2)厨芥・残飯、(3)故紙・資

源ごみ、(4)廃食油、(5)アメニティグッズ)に分けて、京都市内の宿泊施設と、その周辺業者を調査することに決まりました。6月～9月まで調査、10月から集計と分析をし、12月に報告書が完成しました。調査は部門ごとに班分けしてゼミのみなで行いました。その中で、私は仕入れ部門を担当しましたが、みんなが何かのスペシャリストになりましたね。

この報告は大学で学部賞も頂きました。最近、増刷しましたので、興味のある方にはぜひ読んで欲しいですね。

## 最後に上田さんからメッセージをお願いします。

宿泊施設の中でもこれからの厳しい時代に生き残っていくのは、「独自の路線で動いている所」だと思うのです。似たり寄ったりでは駄目なのです。特色を持つこと、それが環境に配慮した動きなら、なおいいですね。

それから、今回のように、京のアジェンダ21フォーラムと学生との協力関係がニーズを共有して、もっとうまく回っていけばいいなと思いました。

どうもありがとうございました。

(聞き手/千葉有紀子)

『「京の岐路」～環境にやさしい宿泊施設をめざして～』  
は一冊1,000円(送料別途)で頒布中。お問い合わせ・  
お申し込みはフォーラム会議室まで。  
Tel/Fax:075-254-1273 E-mail:ma21f@mbox.kyoto-inet.or.jp

## 京のアジェンダ21フォーラム入会のご案内

## 【年間会費】

一口1,000円を単位として、会員ごとに次の口数分とします。

(1)個人会員 1口 (2)団体会員 2口以上

\*会費は郵便振替または銀行振込をご利用ください。

郵便振替口座：00960-7-143508

京のアジェンダ21フォーラム

銀行振込口座：三和銀行京都支店 普通 5468383

京のアジェンダ21フォーラム

## 【会員の特典】

ニュースレター・各種案内資料の無料送付、ワーキンググループへの参加、主催行事への参加など

## 京のアジェンダ21フォーラムニュースレター 2001年春(第7号)

発行：京のアジェンダ21フォーラム事務局

〒604-8571 京都市中京区寺町通御池上ル上本能寺前町488番地

京都市環境局環境企画部地球環境政策課内

TEL. 075-222-4037 FAX. 075-222-4039

E-mail. ma21f@mbox.kyoto-inet.or.jp

URL. http://web.kyoto-inet.or.jp/org/ma21f/

企画：同フォーラムニュースレター編集チーム

編集：佐藤桂子・竹花由紀子・千葉有紀子・松田直子・水口保・宮田晃一郎

デザイン・レイアウト：藤本芳一・山口洋典

このニュースレターは古紙100%の再生紙に大豆油インクを使用しています。